



か こ ころ えん
過去公演

こうえきしゃだんほうじん にほんさんきよくきょうかい
公益社団法人 日本三曲協会

こうえきしゃだんほうじん にほんさんきよくきょうかい
公益社団法人日本三曲協会は、昭和 15 年 6 月に当時の芸能統制令によって日本音楽三曲の
かくりゅうは きょうじゅしゃ えんそうしゃ など きゅうごう けっせい だいにほんさんきよくきょうかい きぼん どう ねん がつ
各流派の教授者・演奏者等を糾合して結成された大日本三曲協会を基盤として、同43年11月
こうえきほうじん ほっそく くに でんどうおんがく こと さんげん およ しゃくはち ふきゅう さんきよく
に公益法人として発足しました。わが国の伝統音楽である「箏、三絃及び尺八の普及と三曲
かくりゅうは こうりゅう はか ほうがくぶんか はってん き よ もくてき そ がっこうこうえん
各流派の交流を図り、もって邦楽文化の発展に寄与すること」という目的に沿って、学校公演、
がっき きぞう おお じぎょう じっし
楽器の寄贈をはじめ多くの事業を実施しております。

こうえきしゃだんほうじん にほんさんきよくきょうかい
公益社団法人 日本三曲協会

公式HP <https://www.sankyoku.jp/>



こうえきしゃだんほうじん にほんさんきよくきょうかい
公益社団法人 日本三曲協会
わ が っ き み りよく
和 楽 器 の 魅 力



がっこうじゅんかいこうえん
「学校巡回公演」

ぜんこく しょうがっこう ちゅうがっこう どう ぶん か げいじゅつだんたい じゅんかいこうえん おこな
全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行うこ
とを通じて、将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力
こうじょう はか ぶん か で き ち いきかく さ かいしゅう そくしん もくてき
の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的としています。
ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演におい
ては、子供たちが参加できる工夫を行います。



文化庁

舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）
独立行政法人日本芸術文化振興会



「^{そうきょく}箏曲」「^{じ うた}地歌」「^{しゃくはちがく}尺八楽」の3つのジャンルの音楽を「^{さんきょく}三曲」と呼びます。これらは^{こと}箏、^{さんげん}三絃（^{しゃみせん}三味線）、^{しゃくはち また}尺八又は^{こきゅう}胡弓という^{がっき}楽器を使った音楽です。また、「^{そうきょく}箏曲」と「^{じ うた}地歌」については^{がっき}楽器を^{えん そう}演奏しながら^{うた}歌をうたうこともあります。



京都で^{きょうと}三絃の^{さん げん}名人とされた^{めいじん}八橋検校は、江戸で^{やつはしけんぎょう}箏を^{え ど}学び「^{こと まな}箏曲」をつくりました。箏を弾きながらうたう音楽が中心で、17世紀の中頃には^{せい き なかごろ}親しみやすいように^{した}曲や^{きょく}楽器を^{がっき}工夫したおかげで、次第に世の中には^{なか}広まっていきました。そのような中、^{ひろ}生田検校と^{なか}山田検校の二人の名^{じん}人が^{かつやく}活躍し、その弟子たちは後世それぞれ「^{で し こうせい}生田流」「^{いく たりゅう}山田流」という^{りゅう は}流派を^な名乗り、現在まで^{げんざい}伝えられています。



江戸時代のはじめの頃（17世紀前半）に、京都や大阪を中心に、^{さんげん}三絃（^{しゃみせん}三味線）を弾きながら^ひ歌をうたう^{うた}音楽として「^{おんがく}地歌」が^{じうた}つくられました。箏曲と同じく「^{そうきょく}検校」や「^{けんぎょう}勾当」という^{こうとう}官位を受け、^{かんい}盲目の^う音楽家達が多く^{もう}の名曲を作り、別のジャンルの音楽で演奏されていた^{もく}箏と^{おんがくかたち}三絃が^{おお}合奏するようになり^{めいきょく}ました。箏と^{つく}三絃の^{べつ}結びつき、さらに^{おんがく}胡弓や^{えんそう}尺八とも^{えんそう}繋がり、^{えんそう}地歌はより豊かな音楽性を持って、現在まで^{げん}伝えられています。



現在私たちが使う^{げんざい}尺八は、^{つた}鎌倉時代の終わりの頃に日本に^{しゃくはち}伝えられたとされています。江戸時代には、^{え ど じ だ い}虚無僧や^{こ む そう}武士などが中心となつて^{ちゅうしん}様々な^{さまざま}仏教音楽が^{ぶつきょうおんがく}つくられました。また、江戸時代の中頃からは^{え ど じ だ い}箏や^{なかが}三絃（^{さんげん}三味線）との^{がっそう}合奏がされはじめ、明治時代以降にはさらに^{こと}盛んに^{さか}されるようになり、^{ぶつきょうおんがく}仏教音楽とともに^{しゃくはちおんがく}尺八音楽として^{げんざい}現在まで^{つた}伝えられています。

演 奏 曲 目

1 「^{はる うみ}春の海」^{みやぎみちお}宮城道雄 ^{さつきょく}作曲

^{こと}箏：^{はなおか}花岡 ^{そうせい}操聖 ^{しゃくはち}尺八：^{たききた}瀧北 ^{えいざん}榮山

2 「^{ひぐらし}ひぐらし」^{なかのしまきんいち}中能島欣一 ^{さつきょく}作曲

^{ことほんて}箏本手：^{いちかわ}市川 ^{のり え の}法慧能

^{ことだい}箏第一替手：^{い とう}伊藤 ^{ちひろ}ちひろ

^{ことだい}箏第二替手：^{に かえ で}武田 ^{たけ だ}博華 ^{ひろ か}華

3 「^{せ おと}瀬音」^{みやぎみちお}宮城道雄 ^{さつきょく}作曲

^{こと}箏：^{ふか み}深海 ^{あいみ}あいみ ^{じゅうしちげん}十七絃：^{いしもと}石本 ^{かおり}かおり

4 「^{しらべ}調（^{ねざきはしゃくはちこてんほんきょく}根笹派尺八古典本曲）・^{つる す ごもり}鶴の巣籠（^{とざんりゅうほんきょく}都山流本曲）」

^{しゃくはち}尺八：^{じん}神 ^{れい}令 ^{たききた}瀧北 ^{えいざん}榮山

5 「^{や ち よ じ し}八千代獅子」^{ふじながけんぎょう}藤永検校 ^{さつきょく}作曲

^{こと}箏：^{ふか み}深海 ^{あいみ}あいみ

^{さんげん}三絃：^{はなおか}花岡 ^{そうせい}操聖

^{しゃくはち}尺八：^{じん}神 ^{れい}令

6 「^{す ま あらし}須磨の嵐」^{やまとまんわ}山登万和 ^{さつきょく}作曲

^{こと}箏：^{たけ だ}武田 ^{ひろ か}博華 ^{いちかわ}市川 ^{のり え の}法慧能

^{さんげん}三絃：^{い とう}伊藤 ^{ちひろ}ちひろ

^{しゃくはち}尺八：^{たききた}瀧北 ^{えいざん}榮山

7 「^{しょうちくばい}松竹梅」^{みつはしこうとう}三橋勾当 ^{さつきょく}作曲

^{こと}箏：^{ふか み}深海 ^{あいみ}あいみ

^{いしもと}石本 ^{かおり}かおり ^{さんげん}三絃：^{はなおか}花岡 ^{そうせい}操聖（^{いく たりゅう}生田流）

^{こと}箏：^{い とう}伊藤 ^{ちひろ}ちひろ ^{いちかわ}市川 ^{のり え の}法慧能 ^{さんげん}三絃：^{たけ だ}武田 ^{ひろ か}博華（^{やま だりゅう}山田流）

^{しゃくはち}尺八：^{じん}神 ^{れい}令（^{きん こりゅう}琴古流） ^{たききた}瀧北 ^{えいざん}榮山（^{とざんりゅう}都山流）